

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470700214		
法人名	医療法人 永楓会		
事業所名	グループホーム千怒の杜		
所在地	大分県津久見市大字3849番地		
自己評価作成日	平成22年12月1日	評価結果市町村受理日	平成22年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4470700214&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成22年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の散歩や食材の買い物・利用者からの希望があれば市内のスーパー等に職員と利用者として一緒に買い物に行っています。また、予定の無い時には、数人でドライブへ行ったり、年に2.3回は遠出の外出をしています。毎日、施設内だけの生活を送るのではなく、外へ出かける事で季節感を味わう事ができ、馴染みの人や場所との関係も途切れず、利用者の方も楽しんで生活を送る事ができています。最近では、広告を見て自ら『買い物に行きたい』と言われたり、『外出をしたい』との思いから、歩行練習などリハビリに頑張る方が増えてきています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・静かな住宅地にあり、利用者は、日課の散歩で周囲の自然を楽しむことができる。
- ・母体の医療機関に、入居者の毎日の様子を伝えるシステムを作り、すぐに医師が往診できる体制である。また、変化のある人へのアドバイスや対応など、24時間の連携体制を整えている。
- ・職員間の連携がよく取れており、いつでも意見を言いやすい雰囲気である。運営に関する意見も積極的に出され、運営に反映している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に運営理念を明示。 他に職員で作り上げた千怒の杜の心得として7つ掲げ、毎朝、朝礼時に7つの心得を読みあげ業務に臨んでいる。	「安心のための地域システム」という地域に密着した法人の理念と、事業所独自の7つの心得を、朝礼時に唱和している。管理者と職員は理念を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動への参加、散歩時のゴミ拾い活動を行い、地域の小学校下校時の見守りを定期的に行なっている。また、散歩時に挨拶等を行っている。	町内会に加入しており、清掃活動や小学生の下校時の見守りなど、地域活動に参加している。また地域のひととバーベキュー会を開催したり、小学生が遊びに来てくれるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で情報発信を行い、毎年夏に地域の住民を招いて、バーベキューを開催し、情報交換の場を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	必要時や、案件等があった場合には、事例を報告し、検証を行なっている。	運営推進会議では、事業所の報告や改善課題について話し合いを行っている。参加者から意見をもらい、地域の避難場所になるなど、地域との交流やサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いており、その他、相談を必要とする場合には助言を頂いている。また、地域ケア会議にて協力関係が築けている。	津久見市地域ケア会議に参加しており、市の担当者や会う機会も多い。事業所の取り組みを伝え、助言をもらっている。地域に向けた介護教室を計画中であり、協働関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体の会議で勉強会を行い、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、疑問に思った事は管理者や会議にて話し合いを行っている。	目標達成計画に沿って、職員研修を行っている。禁止となる具体的な行為などについて学習し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が虐待防止連絡会に参加しており、全職員へ資料などを回覧している。また、身体の異変や、傷や怪我がないか職員同士で、常に注意を払い、入浴時には全身を確認している。		

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用が望ましい場合には管理者から、利用者やご家族へ助言を行なっている。管理者は研修などで学ぶ機会があるが、職員にはまだ学ぶ機会がないので、勉強会を開催する予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項の説明をご家族・利用者の前で読み上げ説明おこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時等に話す機会を作り、意見や要望を聞けるように心がけている。また、意見箱も設置しており、その都度、改善検討を行い、ご家族への通信等で事例、検討、報告を行なっている。	家族の面会時などに直接意見や要望をもらえるよう、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。また目標達成計画に沿って、家族へアンケートを行い、意見を多くもらえるよう工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、全職員で会議を開催して、意見や提案を聞く機会を作っている。その後に、管理職職員で会議を開催し検討している。また、“何でも報告書”に誰でも書けるようにしている。	職員会議や文書で意見を出す機会をつくり、いつでも職員が意見を出しやすい雰囲気である。利用者が和室で楽しめるようにテレビを置くなど、職員から出された意見をケアに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別のワークシートを作成し、評価できる様に努めている。労働時間等も個別に確認を行い就業できるように努め、毎月休み希望を確認した後に勤務シフトを作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	敢行中である。本年度より、施設内研修方法を改善し、毎月プレゼン形式で研修を行っている。施設外研修も、流行病の有無にもよるが、実施していく予定である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括ケア会議等への参加を促し、民間の連絡会等への参加を呼びかけている。		

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り、聞き取りにて行なっている。又、紹介者等からも経緯を聞きだせるように努めている。又、事前聞き取りアンケートを入居前に記入して頂いており、アセスメントに役立てるようになっている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に聞き取りにて行なっている。又、継続的に伺えるように努めている。又、事前聞き取りアンケートを入居前に記入して頂いており、アセスメントに役立てるようになっている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・ご家族にとってよりよいサービスが提供できるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方通行な関係にならないよう、個々の得手、不得手を理解し、役割を持てるようにしている。利用者同士の関係も尊重し、職員が過干渉しない様に心掛けている。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の意向や、ご家族の意向、状況に応じて、自宅への一時帰宅等の提案、実施をおこなっている。また、可能な限り介護へも参加して頂けるように、環境作り、提案を行なっている。(イベントへの参加など)			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所のスーパーに買い物に行ったり、以前から通っていた理髪店等に行く等、関係が途切れない様に支援できている。また、面会時間の設定を行っていないので、いつでも来て頂けるようになっている。	同級生や、以前の職場の人が訪ねてきてくれる。また、馴染みの美容室や理髪店、買い物や友人の家へ行くなど、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	過干渉にならない様に、利用者の自主性に重きを置いているが、孤立、口論等がおきそうな場合には、声掛けを行い、おきた場合には仲裁や気分転換、アフターケアを行い関係の修復に努めている。			

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族の意向もあるが、退居後に手紙のやりとりや、施設内イベントへの参加の呼びかけ等を行なっている。又、必要とされるサービスの紹介や居宅事業所の紹介を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前のアセスメント、入居後のアセスメントにて本人の意向を把握するよう努めている。また、ユニット会議を開催して検討している。	入居時に、これまでの暮らし方などを本人や家族から聞き取り、日々の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。また知り得た情報は連絡ノートに記入し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のアセスメント、入居後のアセスメントにて把握するよう努めている。可能な限りご家族等にも聞き取りを行なっている。また、利用者との日常会話にも注意して、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターン、バイタルチェック、出来ること、出来ないことを把握し、毎月のユニット会議で確認しており、自立支援を基本としたケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気付きノートや、ユニット会議、業務日誌等により、必要時に医師、看護師、管理者、介護職員、にて話し合い、利用者、ご家族の意向に沿ったケアが行なえるよう介護計画の作成に努めている。	月1回ユニット会議で、利用者一人ひとりの様子を話し合いながら、モニタリングを行っている。変化がある場合はその都度、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議等での情報共有に努めている。会議の際にも記録方法の改善をめぐって議論する事が多く、日々よりよく記録する方法を模索して業務に努めている。また、気づきや申し送り等を別のノートに記載して共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方のご家族が来設された際や、遠方への外泊の希望があれば可能な限り外泊、外出をしてもらっている。また、ご家族に無理の無いよう必要な場合は事前に打ち合わせを行なっている		

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の教会の牧師さんの宗教講話や、伝統舞踊の踊り手の方等を招いている。地域の小中学校との交流や、ボランティアの受入、移動図書館、移動販売の利用を行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体がクリニックなので、医師との連絡調整も行ないやすく、主治医が違う利用者も2回/月以上往診を受けており、そちらも主治医の先生へ連絡等スムーズに行なえている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。往診や受診を通じて関係を築いており、受診結果の共有もできている。母体の医療機関とは、緊急時や夜間の対応など連絡体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体のクリニックから看護師が処置に来ていただいたり、施設内で看護師を職員配置しており、担当医との連絡調整や健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は認知症の症状が進行する機会が多いため、入院時に当施設での様子、状態を報告し、度々面会に行き状態の確認を行い、その都度、看護師や生活相談員から話を聞いたり必要とあれば医師とも話し情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前の方針を書面にて確認し、適時更新を行い確認を行なっている。可能な限り、当施設にて終末期の看取り介護まで行なえるように検討、準備している。また、利用者やご家族には、当施設のできることを、できないことを十分に説明を行なっている。	「医療の事前指定書」を作成し、入居時に、事業所のできることを説明するとともに、希望に沿って看取りを行っている。状況に応じて話し合いを繰り返しながら、関係者と方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	考えられる事はマニュアル化されており、いつでも見えるところにある。全体の会議にて応急手当や、初期対応の訓練は不定期にて訓練を実施しているが、定期的に行えるようにしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や、防災会社の監督の下、消火器取り扱い等の実施を、職員、利用者共に参加し、災害時に備える訓練を行なっている。地域の消防団や、近隣住民の方にも当施設のイベントに呼びかけを行い、関係の継続に努めている。	年2回、火災や風水害、夜間を想定した訓練を行っている。運営推進会議を通じて、地域へ協力を依頼しており、避難訓練に自治会長が参加するなど、地域との関係の継続に努めている。	

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人として尊重し、尊厳を傷つけ無い様に心掛けており、トイレの声掛けは特に注意を行なっている。	職員採用時に研修を行っている。利用者を尊重し、誇りを損ねないケアに努めているが、プライバシーや言葉かけの配慮が十分ではない。	定期的に研修をおこない、プライバシーの確保や、本人の気持ちを大切にケアについて、全職員で振り返ることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の興味をそそる様な催しを行ったり、置物を置いていたり個々のペースや趣味、嗜好に合わせ意志を尊重するよう努め、外出等で、自己決定の場が増やせるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や体操、食事の時間、入浴はこちらの都合になってしまうが、買い物、催し物やお祭り等への外出を利用者の意志を確認し出来る限り尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室や洋品店へ通ったり、毎日、鏡の前での髭剃り、洗顔、化粧等、整容への声掛け、準備、介助と個々の状態に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備(野菜切り等)、準備、片付け、机拭き、お茶入れ、食器洗い等それぞれ役割があり、声掛けや、実施してもらっている。食事は朝食と夕食は職員も机を囲み共に食べている。	昼食は外注し、朝・夕食は利用者の希望を取り入れた献立を手作りで提供している。野菜の下ごしらえなど、利用者と職員と一緒に楽しみながら作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部より栄養士を招き、栄養指導取り入れており、米飯は個別に量を決めて提供し残飯量を毎食毎測定している。糖尿病患者の方には専門医の指示の下での食事量を提供している。必要な方には、水分摂取記録をとり、咀嚼や嚥下状態に応じて食事の形状を工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立度に応じて、声掛け～準備～介助と行なっている。又、義歯の着脱の際も、出来るだけ自身にて着脱できるように対応している。		

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかみトイレ誘導実施。また、排泄チェック表により、便秘の際の対応マニュアルにて適時排便を促している。個々の状態に応じ、居室内にポータブルトイレの設置にて対応し、オムツゼロ介護を目指している。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりのタイミングにあわせて、トイレに誘っている。全職員でおむつゼロを目指しており、排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性的な便秘傾向の方へは、水分摂取記録をとり、摂取量を把握し、ヨーグルトや穀物等を多く勧めたりと行い、緩下剤や、座薬、浣腸等にて対応する事が多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者ごとに入浴の頻度を確認し、当日の希望や順番を決めて対応している。入浴の時間帯が、以前は決まっていたが、夜間の入浴に対応し、再検討してみたが、あまり馴染まなかった。希望等があれば今後も柔軟に対応したい。	基本的に週3回の入浴となっているが、希望によって毎日入浴をすることもできる。嫌がる人にはタイミングを図って誘い最低でも週2回以上の入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	メリハリのある程度に好きな時に休んでもらっている。好きなTV番組を見られる方、寝酒を嗜む方、遅寝の方、早起きの方、それぞれのリズムで休んで頂いている。また、冷暖房で調整も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテ内に薬名、効能を記入している。処方箋の変更時や臨時薬が出た場合、副作用等の留意事項も全ての職員が周知できるように日誌に記入をしている。また、ファイルにわかりやすく閉じている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの性格や、生活歴を把握した上で、取りまとめをされる方、メダカの餌やり、花壇、菜園の水遣り、洗濯たみ、掃除、食器洗い等を、ケアプランに取り入れ生活の支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	広告等を見て買い物に行く等の希望時に、自由に外出してもらうようにしている。夜間帯は、人員不足の為すぐに要望がかなえられないが、翌日に申し送りをして対応している。2,3ヶ月に1回は遠方イベント外出を行なっている。	毎日の散歩を日課としている。家族と協力して水族館へでかけたり、道の駅や花見などのドライブに出かけている。利用者の希望にそって買い物や自宅へ帰るなどの個別の支援も行っている。	

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、ご家族の意向を聞いたうえで基本的には事務所で預かりしているが、自身で管理している方もいる。また、購入時に、財布をお渡しして、傍で見守る支援も行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は居室に電話や、携帯電話を持参して自由に電話を使用できる環境にある。電話をお持ちでない方は施設の電話を利用している。又、切手を常時事務所に備えており、いつでもやり取りが出来るように準備、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間には季節の花や、利用者の生けた花を飾り、メダカの水槽を置き、廊下にソファや利用者の創作物、写真等を飾り明るい雰囲気作りに努めている。	日当たりのよい南側の大きな窓から庭の木々を楽しむことができ、ロールスクリーンで柔らかな光を採り入れる配慮をしている。また、メダカの水槽や生花などを飾り、生活感、季節感を感じさせ、居心地良く過ごせる工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の意向や行動パターンを把握し、食卓やソファの配置を心がけている。最近、和室にテレビを購入して、和室も活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物は持参してもらっている。しかし、簡易家具を持参される方が多く、施設の家具を使用してもらったり、手作りで写真を掲示する等して、あまり殺風景にならないよう工夫をしている。	位牌や家族の写真、化粧台などを置き、自室らしい雰囲気を大切にしている。また、自分で洋服を選べるようハンガーラックに洋服を掛けておくなど、個性を尊重し、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内の大半の部分は段差が無く、車椅子でも移動が自由にできる、動線の大半部分には手すりを設置しており、歩行の際にも転倒防止、移動時の負担軽減に適している。		